

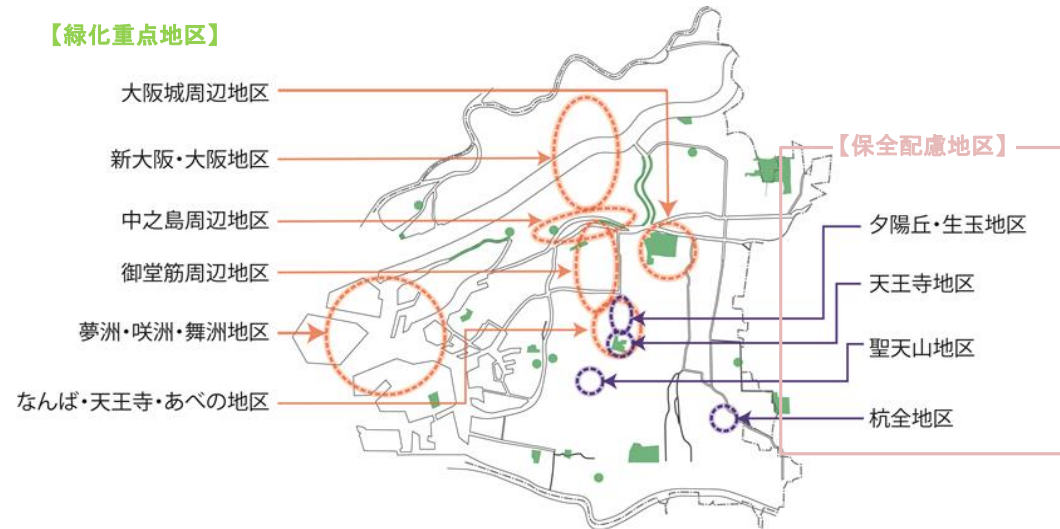
保全配慮計画と緑化重点計画のあり方について

保全配慮計画 【構想案】

20170227
第2回みどりのまちづくり審議会

【保全配慮地区】

- 1 夕陽丘・生玉保全配慮地区
- 2 天王寺保全配慮地区
- 3 杭全保全配慮地区
- 4 聖天山保全配慮地区



保全配慮地区と計画（第1回審議会資料 再掲）

○保全配慮地区の設定の考え方

大阪の個性を特徴づける自然・歴史・文化の“みどりの骨格”を形成する地域を中心に、風致地区内で寺社・仏閣等の私有地と公共空間とが一体となって一団の“みどり”を形成している地区、4地区を指定

○保全配慮計画とは

市内における緑地の状況等を踏まえ、

- ・風致景観の保全の観点
- ・生態系の保全の観点
- ・自然とのふれあいの場の提供の観点

から、みどりの保全に関する将来像を定めた

『地区毎の特性に応じた、緑地の保全を実現するための計画』

○検討の進め方

■平成28年度

①地区の現況整理

地区の緑地の現況、その存続性及び都市内での位置付けを把握

②地区の課題整理

地区の現況調査の結果に基づき、保全すべき緑地等ごとに保全を行うための課題を整理

③地区の基本的な考え方の取りまとめ

課題に基づいて、当該地区における緑地保全の基本的な考え方（構想）を取りまとめ

■平成29年度

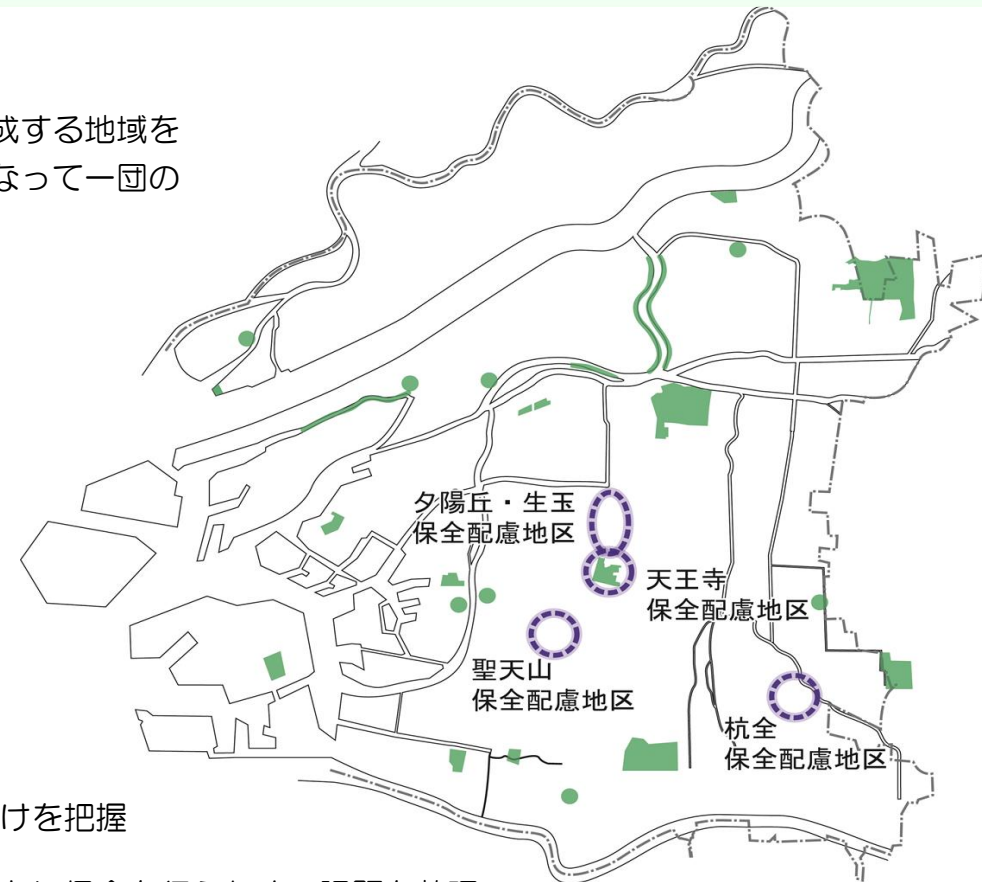
④基本方針の策定

地区の基本的な考え方に基づいて、地区における緑地保全の基本方針を策定

基本方針においては、まとまりのある緑地の状況、樹木の存在状況、保全の必要性を踏まえ、計画のテーマ等により地区の緑の将来像を設定

⑤保全の進め方

地区の基本的な考え方を実現するために必要な風致の保存、樹木の保存など、緑地の保全・創出の進め方



検討の主な視点

【検討の主な視点】

- ☞ **人と自然が共生する都市環境の創出**
生き物の『生息・生育空間』となるような自然環境の保全、また『移動空間』としてみどりの保全を検討
- ☞ **大阪の歴史・文化を感じられるみどりの保全**
地区毎の地域特性を踏まえ、既存のみどりの保全を中心に『景観形成につながるみどり』のあり方を検討
- ☞ **美しいうるおいのあるまちなみの創出**
市街地に残る古木・巨木や寺社の樹木・樹林について、既存制度を活用し、守り育てるとともに、『まちのシンボルとなるようなスポット』となるよう検討

【計画の実現に向けた主な視点】

- ☞ **市民・事業者・行政の協働によるみどりのまちづくりの推進**

《地区の特徴》

- 市内ではあまりない坂と多くの寺社仏閣により、風情ある街並みとなっている。
- みどりの状況は、公園、寺社仏閣等の境内と斜面部に存在するが、斜面林は視認性が悪く七坂等からでないこと確認することが困難。

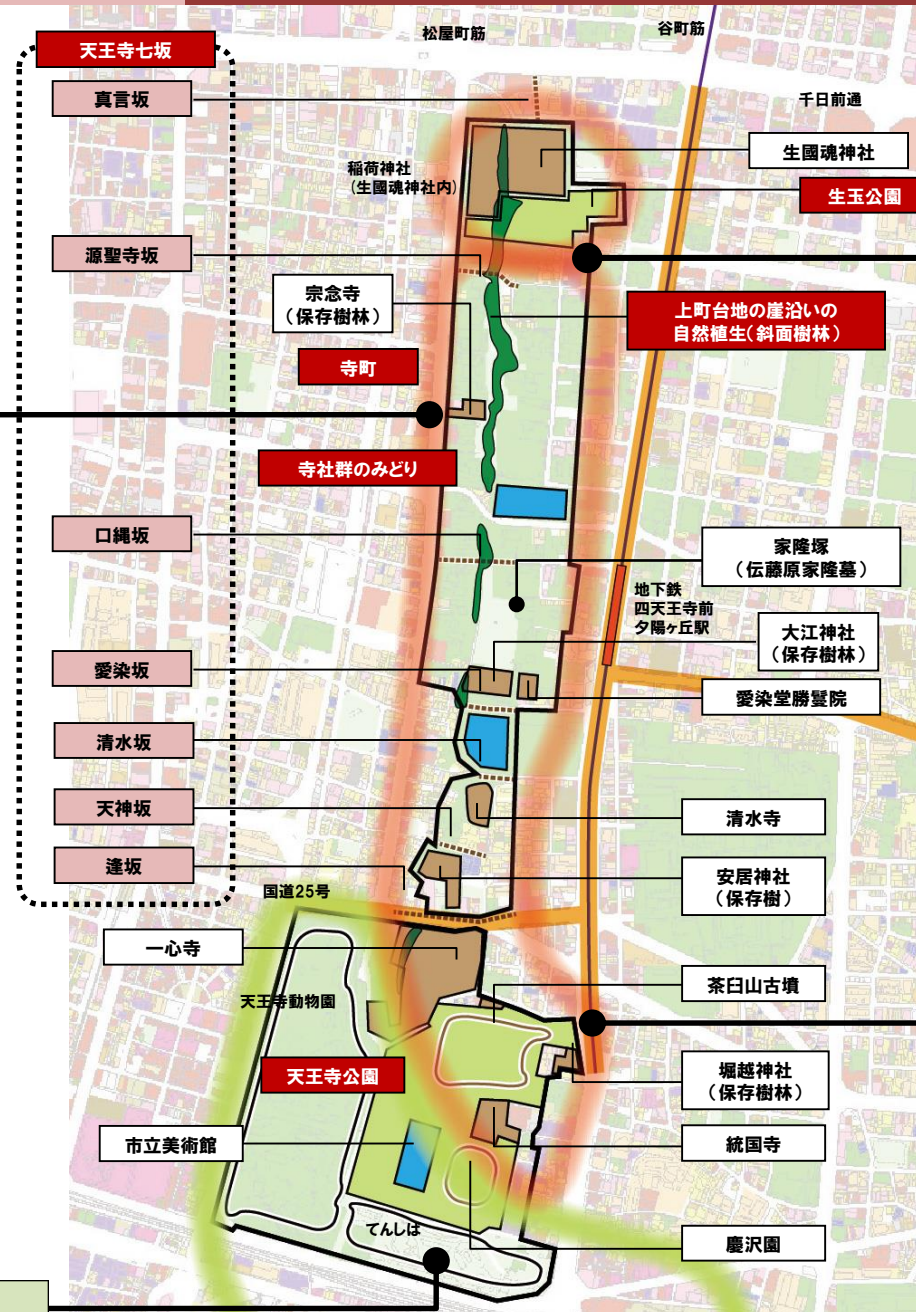
■寺社ゾーン

①地区の現況

- 寺社が密集した、市内でも珍しい大規模な寺町が残っている。
- 寺社の緑は、地区内の斜面樹林と一体となってまとまりのある緑を形成している。
- 大江神社と堀越神社に、保存樹・保存樹林がある。

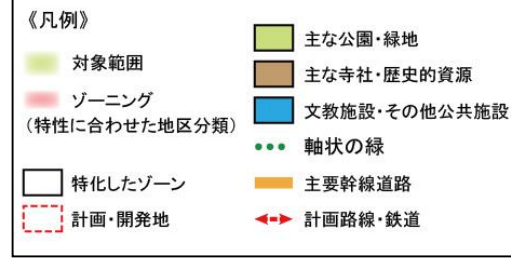
②課題の整理

- 民地内の緑は、所有者が複数に分かれており、一元的な保全が行いにくい。また、斜面樹林については、車両の寄り付き等ができず、管理が困難な状況となっていることから、地区内の緑を一体的に保全していく仕組みづくりを検討。
- 民地の塀が高く斜面樹林が見える場所が少なく、貴重な都市の緑として認知されにくい。天王寺七坂等を視点場とした景観資源としての斜面樹林の活用を検討。
- 保全に関する機運を高める周知活動を推進する方法を検討。
- 生物多様性の観点から、保全すべき対象を検討。



■公園ゾーン

- #### ①地区の現況
- 斜面樹林とともに、生玉公園に緑量豊富なまとまった緑が見られる。
- #### ②課題の整理
- 斜面樹林へ入ることができる貴重な場所の活用方法の検討。
 - 斜面樹林の必要性を周知するため、公園を拠点とし活用したみどりのまちづくり(シンボルとして保全配慮の重要性を周知)を検討。



なんば・天王寺・あべの緑化重点計画に記載

《地区の特徴》

- 杭全公園、杭全神社、満願寺で一団の緑が残っていると同時に、平野環濠跡など地域の歴史的景観を残している。
- 全域が、平野郷地区HOPEゾーン区域に指定されている。

■ 寺社・公園ゾーン

① 地区の現況

- 杭全神社、満願寺と杭全公園でまとまりのある緑を形成している。
- 杭全神社のクスノキは天然記念物に指定され、イチヨウは保存樹に指定されている。
- 杭全公園はかつて池であったが、昭和中期に埋め立てられ公園として整備されている。
- 杭全公園の北側には、平野環濠を忍ばせる土塁が見られる。
- 地区外であるが、地区南側の国道25号線は、みどりの風促進区域に指定されている。

② 課題の整理

- 平野環濠跡などの歴史景観と調和をとりつつ、寺社と公園の緑を一体的に保全していく仕組みづくりを検討。
- 天然記念物や保存樹といった貴重な緑の周知活動の推進の検討。



土地利用状況

一戸建て住宅	
長屋住宅	
共同住宅	
観光商業施設	
業務施設	
文楽施設	
芸術学生施設	
演劇・劇場・サービス施設	
宿泊施設	
工業施設	
体育施設	
運動場・市民施設	
官公署施設	
その他施設	
公園・緑地・広場	
緑地のない土地	



《地区の特徴》

- 聖天山公園と正圓寺により一団の緑が構成されている。
- 聖天山全体が聖天山古墳として指定されている。

■ 寺社・公園ゾーン

① 地区の現況

- 正圓寺と公園の緑が一体となり、まとまりある緑を形成している。
- 周辺道路より高台にあることから、まとまりのある緑が地区のランドマーク的存在となっている。
- 公園の中央部には、シンボリックなクスノキの巨木が見られる。

② 課題の整理

- 寺社と公園の緑を一体的に保全していく仕組みづくりの検討



《凡例》

 対象範囲	 主な公園・緑地
 ゾーニング (特性に合わせた地区分類)	 主な寺社・歴史的資源
 特化したゾーン	 文教施設・その他公共施設
 計画・開発地	 軸状の緑
	 主要幹線道路
	 計画路線・鉄道



土地利用状況

一戸建て住宅	
新築住宅	
共同住宅	
観光商業施設	
業務施設	
文化施設	
医療厚生施設	
娯楽・熱業・サービス施設	
宿泊施設	
工業施設	
体育施設	
運動・遊技施設	
観光客施設	
その他施設	
公園・緑地・広場	
緑地のない土地	

地区の考察

地区内に残る緑の状況が多様

✓ 既存の緑は立地状況や土地所有により、生育状況や維持管理状況といった緑をとりまく状況が異なる。

- 例) 斜面樹林：・維持管理が困難、人の手が入っていない。
・多様な生物の生育・生息空間となっている。
・地権者は複数であるが、緑はつながっている。

社寺の緑：神社とお寺にある緑については、樹木の維持管理状況が異なる。

公園の緑：公園としての利用状況、整備内容（史跡名勝の立地）が様々。

まちづくりとの連携した緑の保全

✓ 保全配慮地区周辺は風致地区にも指定されており、歴史・文化を感じられる地域資源が多く残っており、まち歩きなど、まちづくりの取り組みが行われている。

地区例) 夕陽丘・生玉地区：天王寺七坂や史跡等をめぐるまちあるき

夕陽丘・生玉地区、杭全地区：HOPEゾーンなど

基本的な考え方

個々の取組みについては、地区毎の調査を踏まえ検討を進めていくが、地区特性を考慮した基本的な考え方は、

●緑の適正な保全の推進

緑を将来に向け守り、育てていくため、緑の特性に応じ保全すべき緑を定め保全方針を策定する

●生き物の生息・生育空間としての緑

斜面樹林は民有地でのまとまった緑であり、貴重な生き物の生息・生育・移動空間の観点も踏まえ保全方針を検討

●地域資源と連携した保全の検討

地区内の歴史・文化資源と調和し、まちづくりと一体的な緑の保全方法を検討

●市民・事業者・行政の連携による緑の保全を検討

対象の緑に応じ、市民・事業者・行政の役割を踏まえた保全の取組みを検討

複数の民間施設と公園とで構成されている地区

【地区】

夕陽丘・生玉地区、天王寺地区

- 保全方針の策定と合わせ、土地所有者や地域と、将来に向けた緑の保全の取組みを検討

- 歴史・文化資源などを活かしたまちづくりと連携し、市民や地権者など地域と協力した緑の保全の取組みを検討

特定の民間施設と公園とで構成されている地区

【地区】

杭全地区、聖天山地区

- 保全方針の策定と合わせ、地区内の社寺と連携した保全の取組みを検討

- 周辺住民など地域と連携した緑の保全の取組みを検討

今後の計画検討のイメージ

